

持続可能な/CSR調達を実現させる サプライヤマネジメント

開催日時 **2024年 9月27日(金)** オンライン
2025年 2月17日(月) オンライン 各回とも 10:00~16:30

対 象 • 購買・調達部門のマネジャー、リーダー • CSR調達のご担当者

講 師 牧野 直哉 氏
未来調達研究所(株) 取締役

参加料(税込) 法人会員: 55,000円/1名
会 員 外: 66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ね ら い

調達に迫る新たなテーマの一つは、持続可能な/CSR調達です。企業活動のあらゆる側面で社会的責任の全うを求める声が大きくなっています。

一方このテーマは、どのような切り口で、具体的に取組めば良いのかがわかりにくいのが実情です。

CSRの考え方が一般化してから20年以上が経過し、多くの企業は取組みをまとめた報告書を発行しています。しかし、調達としてどう実践するのかは、限定したテーマ以外、大枠でどうするかがとてわかりにくいのです。

これは、**調達購買部門に持続可能な/CSR調達の具体的な対応ノウハウが存在しない現実を意味**します。

本セミナーでは、調達部門に欠かせないサプライヤを**持続可能な/CSR調達の観点でどのようにマネジメントし、実践していくか**がテーマです。

まず背景を理解し、さまざまな規格、指針、考え方を整理します。そして、過去事例分析からサプライヤマネジメント方法を具体的にお伝えします。これまでの一般的な企業活動も分析しながら、競合企業対比の優位性確保へと活用するためのノウハウを学びます。

持続可能な/CSR調達の視点・重要ポイントは年々変わっています。本セミナーへのご参加で最新の情報へのアップデートをおすすめします。

参加者の声

- 必須な取り組みや対応の難形、参考となる基準を知れた。CSR調達への対応が不可避となる中、すべきことを明確に知ることができてとても参考になった。
- 豊富な事例をもとに体系立てて説明いただき感謝します。社内及びサプライヤ教育や評価方法についてどう動かのヒントになりました。
- 具体的なプロセス、ポイント、事例紹介が多数あり、分かりやすかったです。
- 本社中心の取組みと思っていたが、事業所での取組みの意義をはじめて理解することができた。

■ プログラム

10:00~16:30 [昼食] 12:00~13:00

1 持続可能な/CSR調達とはなにか

- ①一言で表現してみる
- ②定義〜林立する規格を理解する
- ③実践例
- ④なぜ、持続可能な/CSR調達が今、求められているのか
 - 顧客への配慮
 - ブランド維持

2 必要な基礎的条件と サプライヤマネジメントの関連性

〜実践に必要な環境条件を評価し、
具体的なマネジメント方法を獲得する〜

- ①サプライヤへのニーズ
 - 全社視点
 - 事業/事業所視点
 - 調達部門視点
- ②持続可能な/CSR調達管理の方向性
 - サプライヤ
 - 市民・地域住民
 - 従業員

3 実践に必要な社内体制 〜社内機能別 具体的な準備に学ぶ〜

- ①前提条件
- ②調達購買部門
- ③購入要求部門
- ④総務・広報部門
- ⑤バイヤ個人

4 失われた事例と、サプライヤ管理のポイント

〜事例から実践ポイントを学ぶ〜

- ①持続可能な/CSR調達に関連した問題〜近年の話題を例に

- 事例 1 人権
- 事例 2 品質・安全
- 事例 3 情報管理
- 事例 4 食品偽装
- 事例 5 サプライヤ
- 事例 6 外国人技能実習制度
- 事例 7 Scope3脱炭素

5 推進方法と実績評価

〜具体的な実践方法を学ぶ〜

- ①持続可能な/CSR調達の実践とはなにか
- ②監査の種類と全体プロセスを理解する
- ③監査実施内容
 - 労働安全
 - 強制労働
 - 児童労働
 - 労働者の基本的人権

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

